

今年は例年より涼しくなり、ようやくストーブが要らない季節が目の前となってきた北海道です。

本州と北海道との間にある海と言えば津軽海峡ですが、一度は渡って見たかった希望が叶いました。5月のとある日に津軽海峡フェリーを使って青森県へ上陸しました。大間港に11:00に到着し、14:10の船で帰るという滞在3時間の日帰り弾丸ツアーでした。数十年振りにフェリーに乗りました。わずかに片道90分とはいえ、船の旅は気持ちよく、船内もキレイでした。スタンダード席は雑魚寝タイプの20畳位の部屋ですが、窓から景色が見え、よかったですよ。特に出航と着岸時の展望デッキからの眺めは、気持ち良いものでした。

せっかくの機会なので、大間港到着後徒歩30分ほどかけて本州最北端・大間崎へ行き、大間のマグロを食べ、お土産店を散策しました。が、あつという間に帰りの時間となり、急ぎ大間港へ戻るという忙しい旅となりました。しかし、本州最北端へ行くことができ、大満足の1日でした。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

東京オリンピック2020が開幕しました。昨年から続くコロナ禍で一度は延期となり、今年の開催に向けても賛否ある中で、様々な事情があるにせよ、世界中が注目する中で東京五輪開催は、個人的には今後の五輪につながるものと信じています。

開幕式についても、さまざまな議論がありました。ただ、日本らしく清潔で清楚で奥ゆかしさも、映像もきれいで素敵に思えました。また、参加される選手の方々におかれましては、これまでの期間は精神的にも体調などのコンディションを整えるのにも、きつかったのではないのでしょうか。いま既に各種競技の真っ最中です。観客からの声援は時に実力以上の力を引き出す不思議なものだと思います。競技場へ応援には行けませんが、違う形で日本の選手を、また各国の参加される選手たち皆様を応援しています！

あとは期間中のコロナ対策で万全にしのご、乗り越えたあとの評価で、それからの景気上昇に期待したいと思います。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)



世界の拠点から

-From the base in the world-



コロナもワクチン接種の加速化でようやく明るい兆しが見えてきましたね。ただ、油断すると罹ってしまう為、もう少しじっと我慢です。

さて、今回はコロナ前に出掛けて、コロナ後もまた走ってみたい岡山ブルーラインをご紹介します。ここは備前焼きで有名な山陽道備前インターを降りて、すぐに看板が出てくる分かりやすい道路。2004年に無償化するまでは有料道路だった事もあり、1車線のわりに走りやすい道です。はじめは山の間を走り、緑の景色。片上大橋にさしかかると、一気に解放感のある瀬戸内海の絶景が拝めます。布浜駐車場にクルマを止めてしっかり眺める。入り組んだ内海になっており、いつ見てもベタ凧。波が無い為、牡蠣の養殖筏が並び、周りの水面がキラキラ日差しを受け、まるで日本昔ばなしの世界の様です。

その後、クルマを走らせ、道の駅一本松展望園へ。ここでも良い景色が堪能できます。コロナが収まってきたら、また行ってみたいですね。



大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は愛知県岡崎市にあるロッキーカフェを紹介致します。このロッキーカフェは、ロッキーオートという主に旧車を扱う自動車販売店のミュージアムカフェとして2021年4月にオープンしました。元々ロッキーオートは、トヨタ2000GT、初代フェアレディZ、ハコスカGT-Rなど日本のスポーツカーを中心に絶版旧車のレストアやカスタマイズを行う専門ショップで、それらの販売も手掛けており、国産旧車以外にも海外メーカー車、戦前の車、レーシングカーなど貴重な車がショールームに並べられています。隣にカフェがオープンしました。自由に車を見られる空間と商談・現車確認ができる場を設ける目的でカフェを作ったようです。

ショールームに展示されている車は、すべて販売できるということですが、なかなかのお値段のようです。購入となると難しいですが、カフェでの見学だけでも行かれてはいかがでしょうか。

先日、私用に久留米市に行った際、久留米三大食堂のひとつである『ひろせ食堂』さんへ行ってきました。以前に行った時は満席で、時間も無かったため断念。今回はわざわざ時間をずらしての訪問です。

場所は久留米市梅満町。初めて行った時は、どこにあるか分からずに何度も行ってきましたが、今回はスムーズに到着。ですが、屋過ぎに行ったにも関わらず、お店の前には10人近くの行列ができていました。10分くらい待って店内へ。独特の豚骨の匂いと、壁には「人手不足の為、お待たせ致します」などの期待が持てる貼り紙まで。もう何が何でも食べて帰る気満々です。早速、店員さんに『ラーメン・焼きめしセット』を注文。しばらくたってやってきたラーメンと焼きめしをみてびっくりしました。ラーメンは普通にとても美味しい豚骨ラーメンですが、焼きめしが某チェーン店のチャーハンに比べて約2.5倍から3倍くらいの量(汗)。しかもとても美味しい!!でも食べきれません。泣く泣く、お店の中央に用意されているお持ち帰り用のアルミホイルとビニール袋で包んでお持ち帰りました。

ちなみに先月にお伝えしました鶏むね肉ダイエットですが、まったく体重は減りませんが、現在も絶賛継続中です。合間合間にフードファイトをしているようでは痩せるわけはありませんね。反省です。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

コロナのせいで出社できない、自宅待機しないといけない人は多いです。そのためみんなテレビを見たり、新聞、SNSを読んだり書いたりして、家でやれる様々な活動をしています。

最近インドネシアでは観葉植物が人気です。色々な観葉植物があり、インドネシアで一番人気なのはアグラオネマと言われる観葉植物です。50種類以上あり、値段も400円～1万円以上とピンからキリまであります。葉っぱの色も黄、赤、緑、ピンクなど色々あります。

うちの家内も最近アグラオネマを育て始めていて、玄関前に置くときれいです。休日アグラオネマを見ると心がリフレッシュされストレス解消になると言われています。

暇な時にインターネットで一番(?)高いアグラオネマを調べてみました。葉の数は8～10枚で何と38万円もするものがあり、驚きました。その小さいもので葉が1枚のものでもなんと8,000円～15,000円ぐらいしています。

10,000円ぐらいの小さいものを買って何ヶ月間か丁寧に育てて、20万円ぐらいで売れるのであれば、かなり儲けられるのではと思ってしまいました。色々アグラオネマを育てるノウハウを勉強してからと思ったりします。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～小さくても実力あり!～

1台48万円から!これ中国で今もっとも売れている電気自動車の価格です。上海通用五菱社(上海汽車とアメリカのGMとの合併)が2020年7月に発売した『宏光Mini』はそのコンパクトな車体と低価格がうけ、今やテスラをしのぐ人気です。世界のメーカーが参入し競争が激化する中国の電気自動車市場ですが、販売台数でトップを走る『宏光Mini』は発売以来一年足らずですすでに30万台を超える勢いです。広西省柳州市で生産されるこの車は耐久性、軽量化のために日本の軽自動車をすみずみまで研究し開発されています。

全長はわずか2.9mで軽自動車より約50cm短く、横幅も1.5m。それでも4人乗り、フル充電で航続距離は120km、最高速度は100km/h。充電はスマホでも管理できるそうです。小さくても実力ありです。しかも価格はテスラの約10分の1というお手軽さです。購入者の70%は30代以下の若者層だということも納得です。

日本への進出も計画中という話を聞いていましたが、東京ビッグサイトで開催の『TECHNO-FRONTIER2021』で日本初公開となったそうです。この先日本でも小型EV市場が形成されていくとすれば、日本メーカーにとっても脅威かも知れませぬ。

KHEでも『宏光Mini』で通勤の社員が現れるかもしれません。その時は試乗レポ、またお届けいたします。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

実感はないですが、オリンピックが始まりましたね!日本からのニュースは感染対策の話題が多く、その他の話題はあまり聞こえてきません。今回のオリンピックでは日本が世界にアピールできるような企画や運営、もちろん徹底した感染対策も実行できるのでしょうか?!

前にもご紹介したかもしれませんが、コロナウイルスが発生して以来、今まであまり聞き馴染みのない新しい言葉が色々出てきたように思います。例えばステイアットホームオーダー、ソーシャルディスタンス、パンデミック、リモートワークなどなど。基本的に外国語が多いですが、日本語でも緊急事態宣言やコロナ禍などもあります。海外にいと時々立ち足るの『翻訳できない言葉』です。まん延防止等重点措置はどう理解し、翻訳すればよいのでしょうか?!

考えているとこの世の中には翻訳できない言葉が多いのに気が付きます。文化の違いの要因が一番だと思います。言葉は文化を表現するツールであり、文化を理解していないと完全に使いこなすのは難しいと感じます。

例をだすとblueと聞いて英語圏の人間と日本人が思う『青い』は、きっと違うと思います。抽象的な形容詞や形容動詞になるともっと大変になりますね。Prettyは『かわいい』と訳せない場合が多いです。

先ほどの『青い』は英語でいうGreenも含まれています。私の娘たちも海外から帰国した当時は「信号が緑になったよ!」と言っていたことを思い出します。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

環状交差点道路は、ヨーロッパで非常に人気があり、交通量の少ない小さな道路でも環状交差点があります。環状交差点はシンプルですが非常に便利で、スムーズに流れることができ、道路利用者にとっても安全です。

シンガポールには約50カ所の環状交差点があり、その中でもニュートンサーカス環状交差点が最も混雑しています。この環状交差点は10本の道路を結んでいます。頻繁な事故により、信号機が設置されました。初めて通行する人は、信号が非常に多く、どの信号を辿るか分からず混乱を招きやすいです。信号機は確かに事故を減らしますが、一方で、交通渋滞を引き起こし、環状交差点自体の機能を低下させます。

すべてのドライバーが運転ルールを守れば、環状交差点は非常に優れたシステムです。

そうでなければ、信号機が設置されているニュートンサーカス環状交差点のようなケースが増えるでしょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

以前はF1に興味がありませんでしたが、マックス・フェルスタッペンの存在で、好きになりました。フェルスタッペンはレーシング遺伝子を持った才能のあるドライバーであり、彼の家はモータースポーツ家です。彼の父はオランダの元F1ドライバー、母はカートレーサーとして活躍しました。

ここ8年間、7度の世界チャンピオンになったルイス・ハミルトン率いるメルセデスチームが、F1を支配してきました。2015年以降、ハミルトンのライバルであるフェルスタッペンは、単純に車のスピードが不足しメルセデスに対抗するチャンスがありませんでした。メルセデスが常に勝つと分かっているレースを見るのは退屈でした。多くのF1好きは、メルセデスの支配がいつまで続くのか疑問視し、フェルスタッペンが夢を実現し、チャンピオンになるためにレッドブルチームに留まるべきかどうかは、しばしば議論されていました。しかし今シーズン、レッドブルがメルセデスよりも強力なホンダエンジンを搭載したことでチャンピオンシップが変わる可能性があります。

フェルスタッペンは先日のオーストリアGPで最初から最後まで抜かれることなく、圧倒的な勝利をおさめました。そしてフェルスタッペンは、チャンピオンシップでハミルトンを上回りました。しかし、ハミルトンを過小評価してはいけません。まだ14レース残っています。

レッドブルチームのわずかなスピードアドバンテージで、今はすべてのレースを見るのがとてもエキサイティングです。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)